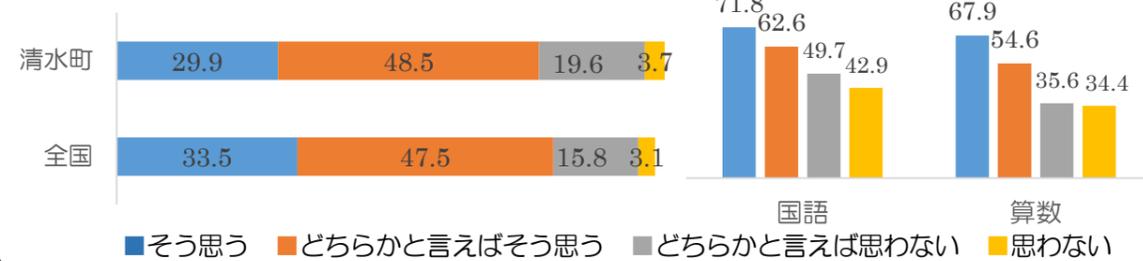


## 「目標とする自分の姿」になるために

生徒質問紙調査の結果から、清水町の中学生が、課題の解決に向けて主体的に取り組むことの大切さがわかりました。データを基に傾向と対策について分析します。

**資料1** 「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」



**資料2** 資料1の質問の回答と正答率の関連

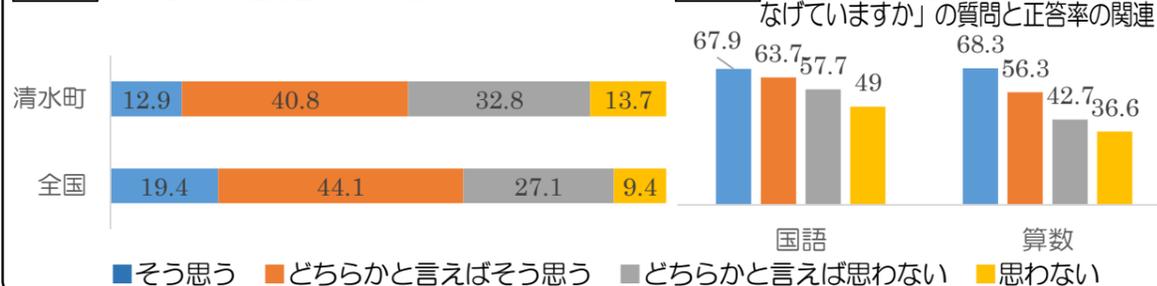
「目標とする自分の姿」とは 子供たちは「なりたい自分」に少しでも近づくために、個々で乗り越えたい問題や達成したい目標を考えて毎日生活をしています。



学校の授業でも同様に、その授業で解決したい課題を「学習問題」として設定し、自力解決の時間を設けたり、話し合いの場を設けたりして課題解決に向けて取り組みます。資料1からは、これまでの授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできた自信を持って言える子供たちの割合が全国と比較して少し低いことがわかります。

資料2と関連付けると、自分の課題としてしっかりと捉えて主体的に解決しようとしてきた子供ほど、正答率が高い関係にあることがわかります。

**資料3** 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」



**資料4** 「学習した内容を見直し、次の学習につなげていますか」の質問と正答率の関連

自分で計画を立てるには 資料3では、自分で計画を立てて家で勉強しているという子供の割合がわかります。自分で計画を立てるためには「自分にとっての課題は何か」を理解することが重要です。やるべきことが明確になると計画を立てやすくなります。一方で自分の課題を見つけるには時間も必要です。御家庭におかれましては、子供たちが自分にとっての課題を見つけ、向き合う時間を確保することで学ぶ力が身に付いていきます。

学んだことを次につなぐ力 資料4からは、「授業で学んだことを次の学習につなげている」子供ほど正答率が高い関係にあることを示しています。今日の学びは明日の学びの基礎となります。また、今日の学びが教科を横断し、他教科のものの見方や考え方にも好影響を与えます。教科に限らず、学級活動や行事など、学校生活で学んだことを活かし、目標とする自分の姿に一步でも近づけるよう、課題を見つけ、その課題に立ち向かえる力を身に付けることが大切だと言えます。



## 全国学力・学習状況調査から見る

2021 中学校編

# 清水町の子供たち



清水町教育委員会は、授業力向上委員会を設置し、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査（以下「学学調査」といいます。）について、清水町の子供たちの傾向を分析しました。その結果についてお知らせします。

まずは、この調査の目的をご理解ください。

学力・学習状況調査の目的

### 教育施策の効果を検証する

・国や自治体が行っている教育施策について効果や改善点を分析し、よりよい教育環境を整える資料とします。

### 学習指導要領の定着を検証する

・学校教育で身に付ける学力の定着を検証し、子供が主体的に学び、学力を身に付ける授業づくりの資料とします。

### 学校・家庭・地域の連携を図る

・家庭や地域での子供の様子や、学力との関連性を分析し、三者が協力して子供の教育に当たる体制づくりの資料とします。

この目的を達成するため、学学調査は学力調査、児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査の3つの調査を行いました。国と県・町教育委員会及び学校には、それぞれの調査を関連付けて多面的に子供の学力や生活の様子を分析することが求められています。本紙では、主に学力調査と児童・生徒質問紙調査の結果をもとにした清水町の子供の学習と生活の状況についてお知らせします。

清水町の全体の傾向

「人が困っているときは進んで助けている」、「いじめはどんなことがあっても許さない」、「人の役に立つ人間になりたい」と考えている子供の割合がたいへん高いです。相手を思いやる気持ちを基礎として人権感覚が育ち、頼もしい社会の構成員となる資質が、清水町の子供たちに育まれていることは喜ばしいことです。



「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と感じている子供の割合が高いです。一方で「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と自信をもって言える子供の割合が低いです。学校、家庭、地域で子供たちの主体的な挑戦のあと押しをしたり、失敗を生かすことの大切さも伝えたりすることが必要です。

【中学校国語】

全国を基準とした清水町の子どもの領域別にみる学力の定着

	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
国語	○	★★	○	★★

これまでの取組の成果（十分な定着が見られる）

- 「話すこと・聞くこと」の領域では、全国とほぼ同じ水準でしたが、「話合いの話題や方向を捉える力」や「質問の意図を捉える力」に強みが見られました。今回の問題のように報告や紹介を基にした話合いを成功させるには、話し手同様、聞き手の力も必要となります。清水町の子どもたちは、「聞く力」が高いと考えられます。この聞く力を発揮することで、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出ししたりするなど話合いが効率よく進めることができると考えられます。
- 「読むこと」の領域も、全国とほぼ同じ水準でしたが、「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する力」に強みが見られました。文学的な文章を読む際には、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える力が必要となります。清水町の子供たちは、場面の展開に即して登場人物の言動を整理して読む力が育っていると考えられます。

そうすると○○という考えはどうか？

●●だと思っけれど違うかな。



これからの課題（定着が十分でない）

- 「書くこと」の領域では、成長の余地があることが明らかになりました。文章を書くときに大切なことは、読みやすく分かりやすい文章にすることです。そのためには読み手の立場にたって文章を整える力が必要となります。清水町の子供たちは意見を述べる際に根拠を用いると分かりやすくなることは理解しているものの、語句や分の使い方を工夫することで、より読みやすく分かりやすい文章にしていく力が十分に定着していない実態が考えられます。

読んでる人が分かりやすいようにまとめよう！



成果を伸ばし、課題を改善する手立てなど

- 今回の結果から清水町の子供たちは読む力が育ってきていることがわかりました。また、生徒質問紙からは「新聞を読んでいる」「あなたの家にはどのくらい本がありますか」という設問において全国の水準よりも新聞や本などを読む活動に親しんでいることが分かっています。日頃から様々な文章の形態に親しむとともに、素敵な1冊に出会えるよう親子で町のまほろば館を利用してみたいかがでしょうか。

この作家のこの表現素敵だなぁ。



この文章すごくわかりやすいね！

- 「書くこと」に課題があった清水町の子供たちですが、「話すこと・聞くこと」の領域では、相手を意識した学びが積み上げられていました。「書くこと」においても相手（読み手）を意識した学びを繰り返すことで、力をつけていくことができます。子供たちが書いた文章に目を通していただき、感想を伝えていただくだけでも子供たちは次の自分の書く活動へ活かすことができます。また「読むこと」同様、新聞や本などで論理的な文章や素敵な表現に触れることも書く力を育てることにつながります。

書き方を工夫してみたんだ。



右のQRコードから、学力・学習状況調査の問題・正答例を見ることができます。是非一度御覧ください。



国語問題



国語正答例

【中学校数学】

全国を基準とした清水町の子どもの領域別にみる学力の定着

	数と式	図形	関数	資料の活用
数学	★★	○	★	★

これまでの取組の成果（十分な定着が見られる）

- 「図形」の領域では、全国とほぼ同じ水準でしたが、「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解する力」について強みが見られました。図形の問題では、辺の長さや角の大きさなどに注目しそれらの関係を捉えることが必要となります。また、扇形を円の一部として捉える発想も図形の領域では必要とされます。提示された図形から必要とされる長さや角を捉えて答えに迫る力がついていると考えられます。

この図形の特徴は何か？



どんな変化があるのかな？



- 「関数」の領域では、全国の水準をやや下回りましたが、「与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る力」について強みが見られました。表やグラフの問題では提示されている数がどのように変化していくのかを読み取る力が必要となります。提示された表から得られる情報をグラフのX軸とY軸に注目することで、量の変化を確実に結びつける力がついていると考えられます。

十と一に気を付けて計算をしないとイケないね。

カッコも注意だね。



これからの課題（定着が十分でない）

- 「数と計算」の領域では、成長の余地があることが明らかになりました。文字を用いた式の計算や処理については、計算の法則を確認したり、計算の課程を振り返ったりする必要があります。清水町の子供たちは基本的な四則計算についての力は定着していますが、正負の数の四則計算やと分配法則については、十分な定着がしていない実態が考えられます。

成果を伸ばし、課題を改善する手立てなど

- 今回の結果から図形の性質を数量の関係に着目して問題を解く力が育ってきていることがわかりました。図形の問題に関しては、日常にあふれる様々な形を図形として捉え直すことで図形の特徴に改めて気づき理解を深めるきっかけとなります。また、空間図形の問題では、実際の具体物に多く触れることで紙面上の図形とイメージが一致することにつながります。電気器具の説明書やプラモデルの設計図など紙面と実際を往復する機会は生活の中にもあふれています。日頃から興味をもって実物と位置関係を照らし合わせながら見る習慣をつけると立体図形や空間図形の理解を深めることにつながります。

なるほどこの部分がここになるのか。



途中の計算も丁寧に書けているね。

見直すためにも必要だからね。



- どの教科でも言われることですが、数学でも、繰り返し問題を解くことが大切になってきます。繰り返し練習の中でも特に効果的なものが基本となる計算問題です。正負の数の四則計算や分配法則をもう一度見直すとともに、計算練習ではその過程を丁寧に書き残すことも大切です。繰り返し問題を解き、計算力を高めることが正答率を高めることに確実につながります。毎日取り組むことで力を伸ばし

右のQRコードから、学力・学習状況調査の問題・正答例を見ることができます。是非一度御覧ください。



数学問題



数学正答例